ごみの出し方心得

いま全国的スケールで、私たちの郷土、私たちの町をみんなの手で美しくする運動が進められています。新潟市でも、緑化推進を中心とする自然保護、それに清掃行政による美化運動を展開しています。今回の紙上討論は〝ごみの出し方心得〟をテーマに、市民の方がたから、身近かな美化運動についてお聞きしました。ちょっとした心使いで私たちのまち新潟市が、美しく住みよいまちが実現できるかもしれません。この機会にあなたも考えてみませんか。

紙上討論 わたしたちの意見

古新聞にくるんで

加藤梅子（主婦58歳、米山）

市の施設めぐりで二回程、西清掃センターを見学させて頂き、その合理化機械化された設備に感心すると共に、悪臭の無いとはいえないその職場で、黙々と働いてくださる職員の方々に、感謝の心が一杯になりました。

それで私達市民は、ごみ出しのール位は完全に守りたいと思っています。私の実行していることは、台所の流し台の傍に、大きめのふたつきバケツを置き、その中にポリのごみ袋を入れておきます。そしてバケツの上に簀を置き、それに必ず二枚折りの古新聞を敷きそこへぽいぽいと台所屑を捨てます。

そして食後の跡片付のたびに、新聞紙をくるくるとくるんで、バケツの中のポリ袋へ入れる訳です。掃じのごみ等も古新聞でくるんでポリ袋へ入れます。袋が一杯になったら必ずぎゅっと口をしぼってごみ出しの日のその時刻に置いてきます。

家人がうっかり缶やびんなど、ごみの中へ混ぜてあると、必ず私に摘発されます。清掃センターでは、不燃物をえり分ける設備もあり、ぽとんぽとんと黒くなった空き缶が出ていましたが、私達の心がけ次第では、そこから一つも出てこなくもできるのです。

それに物かげにそっと捨ててあるごみ袋を見たら、ごみステーションまで持って行ってあげるような、広い心になりたいと、それは私の理想です。

次回は 新潟まつりを盛りあげるには！

全市民あげて参加し、楽しむ新潟まつりも、あと一か月。八月二十日の名物「大民謡流し」をかわ切りに、二十二日、二十三日の「まつり行列」へと続き、「子ども万代太鼓」や、「万代ホコ」など、豪華な顔ぶれで、まつりも盛りあがります。夜は、けんらんたる「花火大会」で、市民の皆さんをうっとりさせることでしょう。

この、年に一回の、全市民あげての祭典「新潟まつり」を、さらに、市民ひとりひとりに密着させるためには、どうしたらいいか。市民の皆さんの積極的なご意見を、お聴きします。

応募要領 四百字詰め原稿用紙一枚半（六百字程度）にまとめ、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記し、市広報課「わたしたちの意見」係（〒九五一 市内西堀通六）へ、六月十日までにお送りください。無記名の原稿は掲載しません。掲載分には薄謝進呈。

清掃者と家庭

矢島賢二（会社員57歳、寺尾）

現在配布になっているごみ収集袋（ビニール製）に穴があいたり、破損しやすい状態になっていないかどうかを確認し、ダンボールの大きなものは、できるだけ小さく折りたたみ、容積を小さくして、燃えやすいものと、燃えないものを区別し、また上部は丈夫なひもで完全にむすび、収集者にできるだけ手数をかけない事が大切と思います。

私達の町内も順番で清掃者が運搬したあと、ゴミ置場を清掃していますが、以上のことに注意すれば清掃も楽であり、また運搬者の方も迅速に仕事ができて、お互いに気持がよいことと思います。

(1)ゴミ収集袋の大きさを定められたとおりとし、できるだけ容積を小さくすること。
(2)完全な収集袋を使用すること。
(3)上部は、とけないよう完全にむすぶこと。
(4)燃えるものだけを入れること。
(5)燃えないもの、例えばガラス製品、鉄製品等は、町内会長が指示した日に、袋に衛札をつけ、「燃えないもの」と朱書すること。
(6)ごみ収集終了後、当番者は清掃後、消毒剤を散布すること。
(7)町内会長は、清掃に必要な、器具、消毒剤等を当番者に配布すること。

以上、盛夏に向う折から衛生面から、各家庭がお互いに協力しましょう。

再生可能なものは区別

山本ムツ（無職、44歳、本町通13）

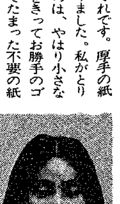
「ちりも積れば山となる」全くこれに、ぴったりの話が、私の町内にあるのです。各家庭から出されるごみの中で、再生できるものを集めてお金に変え、或団体に寄付するその金額が去年は、五万円ほどにもなりました。ある一人の方の、それはあくまでも「もの」を大切にすることに徹した、尊い精神の賜物であることに、私は心から敬意を表しておりますが、各家庭から出るごみの中に、これだけの無駄のあることもはっきりわかりもったいないことだと思います。ちゃんと生かされるものが、みすみす捨てられているのですから、これは、ひいては国家の損失でもあると、私の考えはますます飛躍していきます。新聞紙他紙類、空缶など金物類がどんなものに再生されるか、少しでも関心を持ち、毎日の家事にちょっと気をつける事で、ごみの出し方も大分違ってくるのではないでしょうか。それがまた社会的に、解決出来る問題といくつも、つながりを持つことにもなると思います。今のところ燃えないごみをまとめ別に出しておいても、清掃車はみんな一諸につめ込んで行くのですが、これは疑問です。何年か前に西清掃センターを見学した際、燃えなかったものを燃却炉から、かき出す費用が、大変かかるのだ、とお聞きしたことがありました。私はビン類はもちろん燃えないと思われるごみは、大型ごみ収集日に出す様一ケ月ためますが、結構たまるものです。人まかせの気持にならず、一人一人がもう少し気を使いましょう。

容器に細心の注意を

川島澄子（主婦、40歳、蒲原町）

生活が豊かになり、物が豊富になってくるとゴミの量が増えてくるようです。つい物を大切にしないで使用できるものも廃品にしてしまい食べ物も沢山作ったりしがちです。でもそのような時代はもう終りです。どんな物でも大切にして使い捨てにせず少しでもゴミとして出さないよう心がけることも大事なことと思います。私は新潟市民となって日は浅く市のゴミ処理の方法など分りませんが、色々の地方でゴミの出し方を経験して参りました。ビニールは焼却機を痛めるとかで東京などはビニールが少しでも入っているとゴミを持っていかないそうです。又地方によってはビニール袋を市で斡施してくれてその袋の中にきちんと入れて口もとをしぼって出す。その様にそれぞれです。厚手の紙袋も地方もありました。私がとりあえず考えるのは、やはり小さなポリ袋に水気をきってお勝手のゴミを入れ買物でたまった不要の紙袋に他のゴミと一緒にまとめてきちっと口もとをとめて出す様にしたらゴミはこぼれず、又ダンボール箱などがあったらきちっと入れ、犬などによってちらからない工夫をしたらいいと思います。月一回の大ゴミも危険のないように箱につめて出す。回収は週二回で充分だと思います。三回集めたからと云って街の隅々までそれ程美しくない様に思われます。一回分の費用を他に使って、より一層きれいな市になるよう願っています。

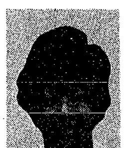
収集者の気持ちで



川辺 キヨ（無職45歳、忠蔵町）

我が家のごみで清掃処理して貰っているのは、台所から出る食品の分と、掃除の時に出るごみの二通りだけだ。食品の分は調理台の脇の空缶に詰めこんで、一日分を、ポリバケツにはめこんだポリ袋に入れ、エアゾールを散布して消毒し、密封して、収集日に出す。空缶ポリバケツはその都度石鹸洗滌は欠かさない、バケツなど逆さにして水を良く切り、軒端で二、三時間日陰干し、台所と裏口脇に常時戻して置く。特徴は空缶ポリバケツ共蓋付きで二重式処理だから、衛生的簡便だが、日々勤勉は怠れない。掃除用ごみの一つはポリ袋をはめこんだ廊下脇の屑篭が一つと、庭の隅にポリ袋をはめこんだ蓋付きバケツを朝夕の清掃用に備え付けてあるが、紙屑、塵、落葉、土砂等その分類をし、土砂石等を除いて、収集日に出す。濡れた土砂は埋没していたけれど、少々手数がかかり、空地の有無、乾燥した砂の浮遊など、衛生的でなく、不健康に思われる。不燃物（西瓜の皮、泥んこ、灰など）の特殊な扱いはしていないが、広場の真中にぎっしり積んで、悪臭除けと可燃性の危険は局力避けてあり、どの家庭でも朝早くから、収集時間迄に山と積んでいる様だけれど、景観上感心しないので、家族の充分な協力が必要だと思う。今後粗大ごみ、泥んこ、石等の収集を迅速に処理出来れば、埋立てに依る黒い塵埃の浮遊はいくらか防げるのではないだろうか。

皆んなで廃物利用を



五十嵐英子（自営業32歳、中野山）

将来の資源不足を考えると物を大事にしようと思う。今迄は何もかも捨てていた。従ってごみを出す時は収集する立場の人の事を考えずに口の部分が汚れていようが紙袋が今にも切れそうになろうが出していた。ところが物価が高くなると毎日の支出をより少くしょうと心掛ける。そんな事からごみを三ツに分ける様にしている。一つは紙類。これは手近な所に段ボールの箱を置き、そこに入れ新聞等を一緒にチリ紙交換に、おかげでこの数カ月チリ紙は半分位で済んだ様だ。食につながるごみ、これは大地に戻してやる。土の中に入れ、腐敗するのを待って草花、野菜の肥料にする。本格的な肥料に比べて効目は少ないがそのうちに負けない位の肥料になってくれるだろう。あとはビニール袋とかプラスチック類これ等だって今は出来ない事だけれど合成させていろいろな物を研究して作り出してくれた化学者達が再生を考えてくれるだろう。今のところこのビニール類だけ出す様にしている。この様にすれば収集、焼却の為の費用が少くなるしごみステーションで気味が悪い位に太った野良猫の姿だって見なくなる。この様にしてわずかな努力で些細な生計の足しにしている我家の「ごみの出し方心得」である。それにしてもこれからごみの増える季節に迎って清掃課の皆様御苦労様です。ありがとう。

全世帯にポリバケツ

長井禮子（主婦、30歳、山木戸）

仙台より引越してきてまだ間もない私ですが、何より気になるのは、毎日のゴミを出す日です。住んでいる所がちょうどゴミ収集場所のすぐそばなので、電柱の下に山積されるゴミを見るたびに景観をそこなわれるのはもちろん、収集なさる方も、袋からはみ出したゴミや、大きなダンボールのゴミを少しずつ取出すのは大変な苦労だと思います。そこで、一人一人が紙袋やビニール袋、ダンボール等に出すより、必ずポリ容器に入れて出したらいかがでしょうか。容器には必ず住所、氏名を記入し、普通の家庭でしたら週三回の収集があるのですから、一回につきポリ容器ひとつと限定したらいかがでしょう。また、週三回の収集のうち、一回は燃えないゴミの日があったらいかがでしょう。月一回は粗大ゴミの日があるのですからとてもゴミの処理に好都合だと思います。ポリ容器の購入ですが、個人で買うのは物価高の時節、各町内の班長さんに申込み、それで市でまとめて買って頂いたらいかがでしょうか。少しでも安く買えれば個人負担が楽になると思います。部屋の片隅にふたのあるポリ容器を置き、収集の日にそのまま出せばいいのですから衛生的にも一番良いと思います。ゴミは必ずポリ容器に入れることを望みます。